

Title	第五十四巻第七号-第十二号総目次：昭和三十六年下半年
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1961
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.54, No.12 (1961. 12) ,p.1- 5
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19611201-0097">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19611201-0097</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田学会雑誌 第五十四卷 第七号、第十二号 総目次 (昭和三十六年下半期)

論 説

いわゆる「従者制と恩貸制の史的一体性」について……………	宇尾野 久	七	一	五二七
一八九〇年から一九一四年にかけてのドイツ労働運動における若干の問題……………	飯田 鼎	七	二五	五四一
——W・バルテルの批判——				
一九六〇年度の国税構造が持つ税金の所得弾力性および限界租税函数……………	高木寿一	八	一	六一一
社会的価値判断と政策プロセス……………	加藤 寛	八	二五	六三五
両大戦間の時期の資本主義と財政——問題点整理のための序論——……………	大島通義	九	一	七三三
複雑労働と単労働……………	持丸悦朗	九	二二	七五四
企業系列に関する一考察……………	原 豊	九	三九	七七一
東南アジア経済開発上の問題点……………	山本 登	十	一	八四三
地金論争に関する一考察——リカードオと地金報告——……………	中西充子	十	二〇	八六二
階層分解の不透明性——外房総漁業についての事例的研究——……………	青沼吉松	十一	一	九三三
検地帳登録人をめぐって(一)……………	速水 融	十一	二一	九五三
中国における初級合作社の基本的性格——生産協同組合の社会主義的特質をめぐって……………	平野 絢子	十一	四一	九七三
『豊かな社会』の経済的欠陥とその克服……………	千種 義人	十二	一	一〇三七

設備規模と市場競争——産業需要増大と潜在的価値競争についてのノオト……………大熊一郎 十二 三〇—一〇六六

資料

十七世紀フランスの領土制——一つの事例……………渡辺國廣 七 四四—五六〇

十七世紀フランス農村の構成——一つの事例……………渡辺國廣 八 四五—六五五

武蔵国東部における藍業——武蔵国葛飾郡西大輪村白石家の場合……………佐々木陽一郎 八 五六—六六六

ワイマール体制下におけるドイツ独占資本とユンカー……………飯田鼎 九 六八—八〇〇

——B・フフター「ユンカーとワイマール共和国」を読んで……………

農民身分の解体——一つの事例……………渡辺國廣 九 八六—八一八

第一次世界大戦中におけるドイツ社会民主党とプロレタリア国際主義……………飯田鼎 十 四二—八八四

——ドイツ社会運動史にかんする最近の資料(四ノ二)……………

独占度測定の問題II……………原 豊 十 五七—八九九

村の商人——十七世紀フランス農業史研究の一齣……………渡辺國廣 十一 七五—一〇〇七

十九世紀末におけるドイツ独占資本と保護関税政策……………飯田鼎 十二 四一—一〇七七

——ロルフ・ゾンネマン著「一八七九年から一八九二年までのドイツ鉄鋼業の独占化にたいする保護関税の成果」の紹介……………

江戸近郊農村の農民負担に関する一考察——武蔵国葛飾郡東葛西領の場合……………佐々木陽一郎 十二 五一—一〇八七

研究ノート

イギリス産業革命史研究についての覚え書——産業革命史学へのひとつの提言……………飯田鼎 八 八四—六九四

学界展望

協同組合理論をめぐる問題点……………平野絢子 七 五五—五七一

インフレーション理論の展望……………福岡正夫 十二 七二—一一〇七

書評

「マスグレイツ」財政理論……………大熊一郎 七 六四—五八〇

W・シャイラー著『第三帝国の興亡——ヒットラーの抬頭』……………飯田鼎 七 六七—五八三

松田智雄著『宗教改革』……………寺尾誠 七 七一—五八七

R・S・ハウエイ著『限界効用学派の生成——一八七〇—一八八九年』……………持丸悦朗 七 七七—五九三

土屋六郎著『経済成長と国際収支』……………深海博明 七 八一—五九七

海道進著『社会主義企業経済学』……………平野絢子 八 一〇一—七一

白杉庄一郎著『独占理論の研究』……………井村喜代子 八 一〇六—七二六

小林謙一著『就業構造と農村過剰人口』……………高山隆三 八 一一三—七二三

シドニー・ポラード著『シェフィールドにおける労働の歴史』……………飯田鼎 九 九六—八二八

ジョン・ウエイ著『モーゼス・ヘス——空想的社会主義者』……………野地洋行 九 一〇〇—八三二

建林正喜著『外国貿易と産業循環』……………井村喜代子 十 六六—九〇八

三田学会雑誌 総目次……………三

小松春雄著『イギリス保守主義史研究——エドモンド・バー——』	白井厚	十	七三	九二五
コスロフ著『初期商品生産——商品生産理論序説——』	飯田裕康	十	七九	九二一
小川喜一著『イギリス社会政策史論』	飯田鼎	十一	八九	一〇二一
ワルトラウド・ザイデル・ホエツプナー著『ウィルヘルム・ウァイトリング』	飯田鼎	十一	九四	一〇二六
——ドイツ共産主義の最初の理論家および煽動者——				
エリー・アレヴィ著『トーマス・ホジスキ』	飯田鼎	十二	七七	一一一三
ミンセル・フオントネ著『ペイザンと農村のマルシャン』	渡辺國廣	十二	八二	一一一八
川元英二著『アメリカ退職年金制度』	庭田範秋	十二	八七	一一二三

新刊紹介

F・エウラル『大規模なヘファルム』について	渡辺國廣	七	九一	六〇七
石沢元晴著『現代米ソ経済論』	加藤寛	七	九一	六〇七
永原慶二著『日本封建制成立過程の研究』	速水融	七	九二	六〇八
小林昇著『経済学の形成時代』	白井厚	七	九三	六〇九
鈴木鴻一郎編『経済学原理論 上』	飯田裕康	七	九四	六一〇
渡部正一著『日本近世道德思想史』	鳥崎隆夫	八	一一八	七二八
モラベ著『経済史入門』	渡辺國廣	八	一一九	七二九
湯村・竹岡訳				
大原總一郎著『化学繊維工業論』	佐藤芳雄	八	一二〇	七三〇
カール・エンゲルス全集刊行会訳『資本論』(第一分冊)	飯田裕康	八	一二〇	七三〇

コッター社版『マルクス著作集』(全八巻)	飯田裕康	八	一二二	七三二
講座・国際経済・第2巻『国際収支』	矢内原勝	九	一〇五	八三七
W・W・ロストワ著、木村健蔵、久保まち子、村上泰亮共訳『経済成長の諸段階』	富田重夫	九	一〇五	八三七
波多野善大著『中国近代工業史の研究』	平野絢子	九	一〇六	八三八
久留間敏造、宇野弘蔵他編輯『資本論辞典』	井村喜代子	九	一〇七	八三九
フレドリック・ベナム著『後進諸国への経済援助』	深海博明	九	一〇八	八四〇
大阪市政研究所『大都市の研究』	高橋潤二郎	九	一一〇	八四二
設立十周年記念論文集				
農林漁業基本問題、西ヨーロッパ諸国における農業基本問題と基本対策	常盤政治	十	八六	九二八
北村次一著『初期資本主義の基本構造』	寺尾誠	十	八七	九二九
講座『現代のイデオロギー』第一巻	野地洋行	十	八八	九三〇
馬場正雄著『景気予測と企業行動』	藤枝省人	十	八九	九三一
中島健一著『稲作社会の発展構造』	島崎隆夫	十一	一〇〇	一〇三二
カール・A・ウィットフォール著『東洋的専制主義』	平野絢子	十一	一〇一	一〇三三
アジアル・経済研究所訳				
務台理作者『現代のヒューマニズム』	白井厚	十一	一〇一	一〇三三
平沢豊著『漁業生産の発展構造』	高山隆三	十一	一〇二	一〇三四
日本生産性本部『国民のくらしと第三次産業』	佐藤保	十一	一〇三	一〇三五
生産性研究所編				
野々村一雄著『ソヴェトの経済力』	加藤寛	十二	九三	一一二九
土屋喬雄監修『地方銀行小史』	尾城太郎丸	十二	九三	一一二九
全国地方銀行協会編				
米花稔著『経営立地政策』	高橋潤二郎	十二	九四	一一三〇
内田義彦著『経済学史講義』	飯田裕康	十二	九六	一一三二